【情報セキュリティ領域に関する Q&A】

Q1 情報セキュリティ領域では、どのようなテーマを扱うのですか

A 現代はビジネス、教育、産業、社会インフラ、医療などの分野で情報技術の適用範囲は拡大しつつあります。人工知能（AI）をはじめ、モノのインターネットといわれる IoT、様々な形式のデータから新たな知見をもたらすビッグデータの解析手法などの技術が登場する一方で、ウイルス感染や個人情報漏洩、サイバー攻撃が私たちの生活に影響を及ぼしています。技術の利用から一歩踏み込み、それらをいかに制御するか、私たちに課せられた大きな問題です。

Q2 情報セキュリティ領域の研究対象は何ですか

A 情報セキュリティは幅広い分野が絡み合った応用学問です。例えば、個人情報の漏洩を考えても、情報を盗む手法はウイルスや偽物のウェブサイトを使ったような手口もあれば、言葉巧みに情報を聞き出す手口もあります。漏洩の原因を調べるのに役立つデジタル・フォレンジックといった技術分野もありますが、これらは犯罪であり、個人情報保護法や不正アクセス禁止法などが関係します。危機管理の視点からは、これらを重層的かつ横断的に理解する必要があります。

Q3 情報セキュリティやサイバー犯罪に関係する職業を志望していますが、どのような就職先があるでしょうか

A 情報セキュリティは技術的なイメージが強いですが、企業などの組織においては、法的または危機管理の知見を活かした対応力を求められることも少なくありません。就職先としては、企業や官公庁の法務部門、情報システム部門、リスク管理部門などに関係する職務が考えられます。１期生・２期生はセキュリティサービス会社や情報システムの開発、情報機器メーカーなどに就職しています。

Q4 この領域のカリキュラムの特長は何ですか

A 本学部は人文系の学部であり、主に法学と社会学の見地から情報セキュリティを学びます。情報セキュリティは、プライバシーや著作権の保護、サイバー犯罪対策、SNS の炎上対策、

コンピュータやネットワークに関する情報処理技術と広範であり、最近ではデマやフェイクニュースなども学習する必要があります。

Q5 この領域にはどんな科目がありますか

A 法科系の科目として「情報法」、「情報管理論」、「情報倫理」、「プライバシーと法」、「知財セキュリティ論」、技術系の科目として「情報技術」、「デジタル・フォレンジック」、「サイバーセキュリティ論」があります。このほか情報とは何かを考えるために「メディアコミュニケーション論」、「ジャーナリズム論」などが配置されています。

これらは講義科目ですが、演習系の科目として、2年次前期の「基礎ゼミ」、2年次後期から4年次前期までの「ゼミナール」で情報セキュリティ領域のクラスを選択することが可能です。